

日本乳癌学会専門医制度 規則

第1章 総則

第1条 [目的]

この制度は乳癌疾患の診療にあたる医師の専門的な知識と技能を高めることにより、国民医療の向上に貢献することを目的とする。

第2条 [制度の概略]

第1条の目的を達成するために日本乳癌学会（以下本学会という）の認定医制度と専門医制度をおく。

1. 乳癌認定医（以下認定医という）は乳癌疾患の専門的な知識と診療能力を有し、本学会が診療の質を担保する者とする。
2. 乳癌専門医（以下専門医という）は乳癌疾患の高度かつ専門的な知識と診療技能を有し、指導的立場になり得る者とする。
3. 乳癌指導医（以下指導医という）は、乳癌疾患の高度かつ専門的な知識と診療技能を有し、認定医、専門医を目指す者（専攻医）を指導する立場の者とする。但し、指導医資格は広告すべきものではない。

第2章 専門医制度委員会

第3条 [委員会の設置]

1. 本学会は第1条の目的を達成するために専門医制度委員会をおく。
2. 委員会の構成、運営は別に定める専門医制度規則資格認定施行細則による。

第4条 [業務]

専門医制度委員会はこの規則によって以下の業務を行う。

- (1) 認定医・専門医制度に関する諸問題を検討する。
- (2) 認定委員会、試験問題作成委員会を設置する。
- (3) 認定委員会は認定医、専門医、指導医、名誉専門医の認定のための審査、本学会の定める認定施設（以下認定施設という）の認定のための審査を行う。
- (4) 試験問題作成委員会は、専門医の認定審査のための筆記試験問題を作成する。

第3章 認定委員会

第5条 [業務]

認定委員会は認定医および専門医、指導医、名誉専門医の認定のための審査、本学会の定める認定施設を審査する。

第6条 [委員の選出]

認定委員会の委員長は、理事長が理事会の議を経て評議員の中から選出し、副委員長は委員長が指名する。委員は理事会が選出し、理事長が委嘱する。

第7条 [任期]

委員の任期は4年とし、再任を妨げないが、通算2期を越えることはできない。

第8条 [欠員の補充]

委員に欠員が生じたときは、理事長がその補充を行う。任期は前任者の残任期間とする。

第4章 試験問題作成委員会

第9条 [業務]

試験問題作成委員会は、専門医の認定審査に必要な筆記試験問題を作成する。

第10条 [委員の選出]

試験問題作成委員会の委員長は理事長が理事会の議を経て、評議員の中から選出し、副委員長は委員長が指名する。委員は理事会が選出し、理事長が委嘱する。

第11条 [委員の任期]

委員の任期は4年とし、再任を妨げないが、通算2期を越えることはできない。

第12条 [欠員の補充]

委員に欠員を生じたときは、理事長がその補充を行う。任期は前任者の残任期間とする。

第5章 認定医の申請資格

第13条 [申請資格]

1. 認定医の認定を申請する者（以下認定医申請者と略記）は、次の各号に定めるすべての資格を要する。

- ・日本国の医師免許証を有すること。
- ・継続4年以上本学会会員であること。
- ・臨床研修医終了後、日本専門医機構が認定した乳腺外科カリキュラムの基幹施設もしくは連携施設（以下基幹・連携施設という）において通算2年以上の修練を行っていること。
- ・本学会が定める乳癌の診療実績、乳腺疾患に関する業績および研修実績を有すること。

2. 認定医認定証の有効期限（5年）を迎え、更新を申請する者は（以下認定医更新申請者と略記）次の各号に定めるすべての資格を要する。

- ・本学会認定医であること。
- ・認定医取得後、継続して本学会会員であること。
- ・本学会の定める診療実績および研修実績を有すること。

第6章 認定医の認定方法

第14条 [申請方法]

1. 認定医申請者は次の各号に定める申請書類を認定委員会に提出し、手数料を納付する。
 - ・認定医認定申請書
 - ・履歴書
 - ・医師免許証（写）
 - ・2004年以降の医師免許取得者は臨床研修終了書（写）
 - ・基幹・連携施設での修練終了証明書
 - ・診療実績、研究業績および研修実績の証明書類
2. 認定医更新申請者は、次の各号に定める申請書類を認定委員会に提出し、手数料を納付する。
 - ・認定医更新認定申請書
 - ・履歴書
 - ・認定医認定証（写）
 - ・診療実績および研修実績の証明書類

第15条 [審査]

1. 認定医申請者については認定委員会が毎年1回申請書類により申請者の認定医としての適否を審査し、その結果により専門医制度委員会が判定する。
2. 認定医更新申請者については認定委員会が毎年1回申請書類によって申請者の認定医としての適否を審査し、その結果に基づき専門医制度委員会が判定する。

第16条 [認定証の交付]

1. 理事長は専門医制度委員会が認めた者に対して理事会の議を経て、認定医認定証を交付する。
2. 認定医認定証の有効期限は、交付の日から5年とする。

第7章 認定医の資格喪失

第17条 [資格喪失]

次に掲げる各号に該当する者は、専門医制度委員会ならびに理事会の議を経て、認定医の資格を喪失する。

- ・本人の辞退
- ・会員の資格喪失

- ・申請書の嘘偽
- ・認定医の非更新
- ・認定医として不適当と学会が判断した者

第18条 [復活・再申請]

1. 別に定める復活・再申請に関する申請書類を専門医制度委員会に提出し認められた者に対して復活を認める。
2. 前条第3号（申請書の嘘偽）によって取り消された者は、原則として5年間再申請することを認めない。

第8章 乳腺専門医の申請資格

第19条 [申請資格]

1. 乳腺専門医の認定を申請する者（以下乳腺専門医申請者という）は、次の各号に定めるすべての資格を要する。
 - ・日本国の医師免許証を有すること。
 - ・基盤学会専門医または旧認定医*であること。
 - *2023年までに申請（新規・更新）を行って承認された認定医
 - ・継続5年以上本学会会員であること。
 - ・臨床研修医終了後、基幹・連携施設または認定・関連施設（関連施設は2025年12月まで）において所定の修練カリキュラムにしたがい通算5年以上の修練を行っていること。
 - ・別に定める研究および研修業績を有すること。
 - ・別に定める診療経験を有すること。
2. 65歳を越えた者で乳腺専門医を更新しない者は、乳腺専門医の有効期限が終了してから2年以内に名誉乳腺専門医を申請することが出来る。名誉乳腺専門医を申請するには次の各号に定めるすべての資格を要する。ただし、名誉乳腺専門医は乳腺専門医として広告することは出来ない。
 - ・本学会乳腺専門医であること。
 - ・乳腺専門医取得後、継続して本学会会員であること。
 - ・本学会の定める研修実績を有すること。
 - ・名誉乳腺専門医の資格は、生涯有効であるが本学会会員でなくなったときは、その資格を失う。
3. 乳腺専門医認定証の有効期限（5年）を迎え、更新を申請する者（以下乳腺専門医更新者という）は、次の各号に定めるすべての資格を要する。
 - ・本学会乳腺専門医であること。
 - ・乳腺専門医取得後、継続して本学会会員であること。
 - ・本学会の定める研修実績を有すること。
 - ・別に定める診療経験を有すること。

第9章 乳腺専門医の認定方法

第20条 [申請方法]

1. 乳腺専門医申請者は次の各号に定める申請書類を認定委員会に提出し、手数料を納付する。
なお、受験資格を認められた者はその翌年及びその翌々年の申請に限り、以下の書類の提出を省略することが出来る。
 - ・ 乳腺専門医認定申請書
 - ・ 履歴書
 - ・ 日本国の医師免許証（写）
 - ・ 2004年以降の医師免許取得者は臨床研修終了証（写）
 - ・ 基盤学会専門医証明書（旧認定医*証明書）
*2023年までに申請（新規・更新）を行って承認された認定医
 - ・ 基幹・連携施設もしくは認定・関連施設（関連施設は2025年12月まで）での修練終了証明書
 - ・ 診療実績一覧表および研究業績一覧表（詳細は資格認定施行細則に定める）
2. 乳腺専門医更新申請者は、次の各号に定める申請書類を認定委員会に提出し、手数料を納付する。
 - ・ 乳腺専門医更新認定申請書
 - ・ 履歴書
 - ・ 乳腺専門医認定証（写）
 - ・ 研修実績証明書類
 - ・ 診療実績一覧表および研究業績一覧表（詳細は資格認定施行細則に定める）
3. 名誉専門医申請者は、次の各号に定める申請書類を認定委員会に提出し、手数料を納付する。
 - ・ 名誉乳腺専門医認定申請書
 - ・ 履歴書
 - ・ 乳腺専門医認定証（写）
 - ・ 研修実績証明書類

第21条 [審査]

1. 乳腺専門医申請者については認定委員会が毎年1回申請書類および試験により申請者の専門医としての適否を審査し、その結果により専門医制度委員会が判定する。
2. 乳腺専門医更新申請者については認定委員会が毎年1回申請書類によって、申請者の専門医としての適否を審査し、その結果に基づき専門医制度委員会が判定する。
3. 名誉乳腺専門医申請者については認定委員会が毎年1回申請書類によって、申請者の名誉乳腺専門医としての適否を審査し、その結果に基づき専門医制度委員会が判定する。

第22条 [専門医認定証の交付]

1. 理事長は専門医制度委員会が認めた者に対して理事会の議を経て、乳腺専門医認定証を交付する。
2. 乳腺専門医認定証の有効期限は、交付の日から5年とする。

第 10 章 乳腺専門医の資格喪失

第 23 条 [乳腺専門医の資格喪失]

次に掲げる各号に該当する者は、専門医制度委員会ならびに理事会の議を経て、乳腺専門医の資格を喪失する。

- ・ 本人の辞退
- ・ 会員の資格喪失
- ・ 申請書の嘘偽
- ・ 乳腺専門医の非更新
- ・ 乳腺専門医として不適当と学会が判断した者

第 24 条 [復活・再申請]

1. 別に定める復活・再申請に関する申請書類を専門医制度委員会に提出し認められた者に対して復活を認める。
2. 前条第 3 号（申請書の嘘偽）によって取り消された者は、原則として 5 年間再申請することを認めない。

第 11 章 指導医の申請資格

第 25 条 [申請資格]

1. 指導医の認定を申請する者（以下指導医申請者と略記）は、次の各号に定めるすべての資格を要する。
 - ・ 乳腺専門医もしくは乳腺外科専門医（以下専門医という）を取得後 5 年以上経過し、少なくとも一回更新した専門医であること。
 - ・ 一定の研究業績を有していること。
 - ・ 基幹・連携施設もしくは認定施設、関連施設（2025 年 12 月末まで）に勤務している者であること。
 - ・ 認定医、専門医を目指す専攻医を指導していること。
2. 指導医認定証の有効期限（5 年）を迎え、更新を申請する者は（以下指導医更新申請者と略記）次の各号に定めるすべての資格を要する。
 - ・ 専門医を継続していること。
 - ・ 一定の研究業績を有していること。
 - ・ 基幹・連携施設もしくは認定施設、関連施設（2025 年 12 月末まで）に勤務している者であること。
 - ・ 認定医、専門医を目指す専攻医を指導していること。

第 12 章 指導医の認定方法

第 26 条 [申請方法]

1. 指導医新規申請者は次の各号に定める申請書類を認定委員会に提出し、手数料を納付する。指導医申請が専門医更新と同時の場合は、乳腺専門医資格は自動的に更新される
 - ・指導医申請書
 - ・乳腺専門医認定証（写）
 - ・診療経験および研修・研究業績（詳細は資格認定施行細則に定める）
 - ・指導業績
 - ・基幹・連携施設もしくは認定施設、関連施設（2025年12月末まで）での勤務証明書
2. 更新申請者は、次の各号に定める申請書類を認定委員会に提出し、手数料を納付する。（乳腺専門医と同時更新の場合は指導医更新のみでよい。）
 - ・指導医更新申請書
 - ・指導医認定証（写）
 - ・乳腺専門医認定証（写）
 - ・診療経験および業績目録（詳細は資格認定施行細則に定める）
 - ・指導業績

第 27 条 [審査]

1. 指導医申請者については認定委員会が毎年1回申請書類により申請者の指導医としての適否を審査し、その結果により専門医制度委員会が判定する。
2. 指導医更新申請者については認定委員会が毎年1回申請書類によって、申請者の指導医としての適否を審査し、その結果に基づき専門医制度委員会が判定する。

第 28 条 [指導医認定証の交付]

1. 理事長は専門医制度委員会が認めた者に対して理事会の議を経て、指導医認定証を交付する。
2. 指導医認定証の有効期限は、交付の日から5年とする。

第 13 章 指導医の資格喪失

第 29 条 [指導医の資格喪失]

次に掲げる各号に該当する者は、専門医制度委員会ならびに理事会の議を経て、指導医の資格を喪失する。

- ・本人の辞退
- ・会員の資格喪失
- ・申請書の嘘偽
- ・専門医、指導医の非更新
- ・指導医として不相当と学会が判断した者

第30条 [指導医の復活・再申請]

1. 別に定める復活・再申請に関する申請書類を専門医制度委員会に提出し認められた者に対して復活を認める。
2. 前条申請書の嘘偽によって取り消された者は、原則として5年間再申請することを認めない。

第14章 施設認定

第31条 [資格]

1. 認定施設は原則として次の各号に定めるすべての要件を満たすことを要する
 - (1) 本学会の認定医、乳腺専門医あるいは乳腺外科専門医のいずれかが1人以上常勤医として勤務する施設であること。
 - (2) 本学会が定める実績を満たすに必要な乳癌症例の診断・治療が所定の件数以上行われていること。
 - (3) 手術症例、局所進行症例および de-novo Stage IV 症例を National Clinical Database に登録していること。
 - (4) 乳腺診療に必要な検査（マンモグラフィー、超音波、組織検査など）が施設内で行われていること。
 - (5) 乳腺疾患に関する教育的な行事が施設内で定期的に行われていること。

第15章 認定施設の認定方法

第32条 [申請方法]

1. 認定施設としての登録を申請する診療施設の長は、次の各号に定める申請書類を認定委員会に提出する。

認定委員会が不要と認めた場合は、第2号以下の書類を省略することができる。

 - (1) 認定施設認定申請書
 - (2) 施設内容説明書
 - (3) 常勤である認定医、乳腺専門医あるいは乳腺外科専門医の履歴書および勤務証明書
 - (4) 診療実績
 - (5) 教育的行事の実績
2. 更新のため認定施設としての登録を申請する診療施設の長は、前項の各号に定める申請書類を認定委員会に提出する。なお、認定委員会が不要と認めた場合は、第2号以下の書類の一部について省略することができる。

第33条 [認定施設の審査]

認定委員会は毎年1回、申請書類によって認定施設としての適否を審査し、その結果により専門医制度委員会が判定する。

認定委員会は、申請された施設の実地調査を行うことができる。

第 34 条 [認定施設認定証の交付]

理事長は専門医制度委員会が認定施設として認めた施設に対して、理事会の議を経て本会の施設認定証を交付する。認定施設認定証の有効期限は2年とする。

第 16 章 認定施設の資格喪失

第 35 条 [資格喪失]

認定施設は次の理由により専門医制度委員会の議を経て、認定施設の資格を喪失する。

- (1) 認定施設の資格を辞退したとき。
- (2) その他認定委員会が不相当と認めたとき。

第 17 章 規則の変更

第 36 条

この規則の変更は、専門医制度委員会ならびに理事会の議を経て、総会の承認を要する。

(附則)

1. 本会則は 1997 年 6 月 30 日より施行する。
2. 本会則は 1999 年 5 月 27 日より施行する。
3. 本会則は 2002 年 7 月 4 日より施行する。
4. 本会則は 2003 年 6 月 11 日より施行する。
5. 本会則は 2004 年 4 月 6 日より施行する。
6. 本会則は 2008 年 5 月 2 日より施行する。
7. 本会則は 2012 年 6 月 27 日より施行する。
8. 本会則は 2017 年 1 月 27 日より施行する。
9. 本会則は 2018 年 3 月 30 日より施行する。
10. 本会則は 2019 年 5 月 24 日より施行する。
11. 本会則は 2022 年 6 月 29 日より施行する。ただし、認定施設及び認定医の申請要件は 2024 年 1 月 1 日より適用する。